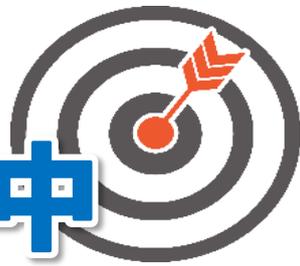


2024
ズバリ! 的中



漢文

北海道大学

『送薛存義之任序』の現代語訳を問う箇所が的中

入試問題

前期日程
四 問二

河合塾

大学受験科・高3
古典サブテキスト
漢文編 50頁 三 B3

四 次の文章は、零陵県の侯の異令であった薛存義が他の任地に赴くを送るにあたって、官吏はどうかについて柳宗元が述べた文である。これを読んで設問に答えよ。なお、設問の都合で送りかたを省いたところがある。

凡吏於土者、若知其職乎。蓋民之役、非以役民而已也。凡民之食於土者、出其什一備乎吏使。司平於我也。今我受其直、怠其事者、天下皆然。豈惟怠之、又從而盜之、向使備一夫於家、受若直、怠若事、又盜若貨、則必甚怒而黜罰之矣。以今天下多類此、而民莫敢肆其怒、而黜罰、何哉。勢不也。勢不同、而理同。如吾民何。有達於理者、得不恐而畏乎。存義、侯令零陵二年矣。蚤作而夜思、勤力而勞心、訟者平賦者均、老弱無懷、詐暴憎。其為不虛取直也。矣。其知恐而畏也。審矣。

(柳宗元「送薛存義之任序」)

問二 傍線部イ「豈惟怠之、又從而盜之」を、(2)の内容をそれぞれ具体的に明らかにして現代語訳せよ。

3

豈惟怠之、又從而盜之。

豈に惟だに之を怠るのみならず、又從つて之を盜む。

どうしてただその仕事を怠るだけであらうか、いやそればかりではなく、またその上に「入民が納める税の中から」盗み取るのである。(柳宗元「送薛存義之任序」)